

部

FAX 03 (3595) 6911 Eメール tokuho@chunichi.co.jp

「9条にノーベル平和賞を」

1人の母親の運動 広がる

戦争放棄を定めた憲法九条にノーベル平和賞を。神奈川県的女性が一人で始めた運動がある。荒唐無稽のようだが、ここに至りて現実味を帯び始めた。ノーベル委員会への推薦資格のある大学教授らが協力を表明したのだ。(出田阿生)

このアイデアを思いついたのは、神奈川県座間市の主婦鷹巣直美さん(三三)。昨年、欧州連合(EU)が「地域の統合により、国家の和解と平和を進めた」として平和賞に選ばれた。

「戦後七十年近くも日本に戦争をさせなかった九条にも資格がある」とひらめいた。安倍政権が改憲への動きを活発化する中、「受賞すれば九条を守れる」と思ったことも大きかった。

「社会問題に無関心な学生」だった鷹巣さんを変えたのが、留学先のオーストラリアで出会った各国の難民だった。戦火や暴力で心身共に深く傷つき、それでも立ち直ろうとする姿。

「戦争に巻き込まれずにす



憲法9条のノーベル平和賞を目指して街頭で署名活動をする鷹巣直美さん(2013年12月29日、相模原市)

推薦資格持つ教授らも賛同

米国で立ち上げたオハイオ大名誉教授のチャールズ・オーバービー氏(八七)が過去に推薦しようとしたが、鷹巣さんと同じ理由で委員会から断られた。

そこで鷹巣さんが考えたのが、「九条を保持している日本国民」という枠組みだった。鷹巣さんが地元市民団体などに話したところ、賛同する市民らによる実行委員会が昨年八月に発足した。石垣義昭共同代表(七三)と、メンバーの岡田えり子さん(五三)は「最初

は受賞なんてできるのかと突飛に感じたが、署名を集めるうちに、それだけの価値が十分あると確信するようになった」と口をそろえる。

学長、社会科学や歴史学など一定分野が専門の教授。平和や外交政策の研究所長、国際裁判所裁判官、過去の受賞者やノーベル委員会の関係者も有資格者だ。

「実現性はある」と大学教授らに協力を呼びかけると、推薦人が集まり始めた。その一人、勝村弘也・神戸松蔭女子学院大学教授(聖書学)は「戦争に直接

関わらない国は世界で珍しい。それを改憲で崩そうとする動きに、若い人の関心が希薄すぎると感じる。こうした活動は日本社会がよって立つ土台を見直す機会になる」と評価する。

ノーベル平和賞の推薦締め切りは二月一日。昨年は二百五十九の個人・団体がノミネートされた。多くの推薦人が多様な理由で推薦すること、賛同する人の署名が多いほど、委員会へのアピールになるという。詳しくは「『憲法9条にノーベル平和賞を』実行委員会」の署名サイト(<http://chn.ge/1bnX7Hb>)へ。